

『不況と男女雇用機会均等法』

男女共同参画推進委員 秋元 國男

リーマンショックによる世界的同時不況により、わが国でも現在の経済情勢では、就職は超氷河期と云われ、卒業を控えた学生にとって就職できるかできないかは一生を左右する問題である。私が講師を務める短大でも、ある日クラス全体が黒い制服になることがある。普段は華やかな服装だから、「どうしたの」と聞くと会社訪問だという。毎年この機会とばかりに、男女雇用機会均等法について話すことがある。

法律では「事業主は、労働者の募集及び採用について、性別にかかわらず均等な機会を与えなければならない」となっていて、会社の募集案内に「男子に限る」とか制限を書いてはならないこと。それがあつたために、先輩達が非常に悔しい思いをしたこと。また、この男女雇用機会均等法の制定に多くの先駆的な女性達の運動があつたことなどを話す。

私の授業にあまり興味を示さないときには、DVやデートDVについて話すこともある。特にデートDVでは、メールのやりとりで楽しむのもいいが、行動を縛るような、干渉する、あるいは暴力で支配しようとするような相手は避けた方がいいとアドバイスする。ひとりで悩まないで、大学の相談室や県の女性相談センターへ相談するよう話している。

男女共同参画社会の実現に向けて

射水市長 夏野 元志

射水市男女共同参画推進委員の皆様には、日ごろからそれぞれの地域において、男女共同参画に関する意識啓発や研修会など、様々な活動に大変熱心に取り組んでいただいておりますことに対し、心から感謝を申し上げます。

私たちは今、急速な人口減少を伴う少子・高齢化社会を迎えており、近い将来、とりわけ地方都市においては、経済活動や地域を支えるマンパワーが不足するのではないかと危惧されております。

そのような中であつて、男女がともに協力し、家庭や地域、職場においてそれぞれの能力を十二分に発揮できる環境をしっかりと整備し、真の男女共同参画社会を実現していくことは、これからの行政の大きな目標の一つであると思つております。

現在、射水市では、男女共同参画推進委員として、39人の皆様にご活躍いただいておりますが、この広報紙「いみずのに拓く」は、推進委員会の日ごろの活動と男女共同参画に関する情報の発信に、大いに役立っているものと思つます。

DVの防止からワーク・ライフ・バランスまで、皆様の活動の範囲はますます広がるものと思われまふ。どうか今後も引き続き本市の男女共同参画事業のさらなる充実に向け、委員の皆様のお力添えと市民の皆様のご協力をお願い申し上げます。



啓発運動

6月19日、11月21日

啓発活動の一環として、小杉駅前にて男女共同参画社会基本法10周年のリーフレットと広報紙を配布しました。朝7時から8時まで通勤・通学の特に若い人達を対象としました。また、2回目は、イータウン、アルプラザで家族連れの買い物客に女性に対する暴力をなくす運動のリーフレットをワーク・ライフ・バランスのチェックシート入りのティッシュと共に手渡しました。

「男女共同参画を身近に感じました。自宅でも話していきたい」と笑顔で言われ、「がんばってください」の励ましの声をいただきました。



多文化こども交流会に参加して

8月23日

放生津公民館で多文化こども交流会が行われ参加しました。50名余りの小・中学生と、幼児を持つ保護者や外国の若者の姿もあり大変賑わった交流会でした。様々な国の子どもたちが一同に集い、日本の伝承遊びの数々に挑戦していました。「洗面器玉入れ」「豆うつし」「フィルムケースの積みあげ」などを楽しんでいる様子に言葉の心配も無く、心の通い合う交流ができたことに、ボランティアとして喜びと自信を感じた一日でした。



射水市ボランティアフェスティバル

9月13日

小杉社会福祉会館で射水市ボランティアフェスティバルが開催され、私たちは朗読劇「感じて気づいて地域が変わる」を発表しました。

その時配布したチラシ(DV)について意見を聞くと、お年寄りの方々は「私たちが若い時は、叩かれて当たり前。黙って我慢することやった。」と話され、「うちの母ちゃんの方が怖いぞ」という男性の声もありました。若い恋人達の間で我慢している人達も多いことが判り、お年寄り、若い人、高校生や中学生などの多くの人々に見て聞いてもらって、もっと強く訴えることが必要だと思いました。



公民館まつりに参加して (大門地区)

5カ所の公民館まつりで「イエス・ウィ・キャン(変わらんまいけ)」という朗読劇を行いました。

自治会の役員会の場面で男は役員、女はお茶出し・後片付けという昔ながらのやり方を変えていくというシナリオです。

地域の人達は、男の役割、女の役割ということにこだわらない生き方に共感され、笑いも出ました。

敬老会を兼ねての公民館まつりだったので、老人会の方達も楽しんでおられました。



介護講座 (下地区)

9月8日、認知症の理解を深めようと、大江苑副施設長串田美代志さんから、「その人らしさをいつまでも」と題し、お話を聞いた。

徘徊、昼夜逆転、判断力の低下等、認知症の対応の仕方を、串田さん自身の体験を基に具体的に判りやすく教えていただいた。

だれもがいつか行く道として心深く聞き、介護への気配りが必要だと感じた。特に認知症の人の行動には必ず理由があり、その思いに気づき接することこそ大切であると学び、今後の介護に役立てていきたい。



クリスマスケーキ作りに参加して (新湊地区)

12月23日、法士寺公民館で行われたクリスマスケーキ作りに、我が家に嫁いで半年の息子の嫁と一緒に参加しました。ここは上手に作り、「ちょっとは良い所を見せなければ」と、参加しました。

男性がクリーム作りを既に終え準備OK。嫁の手前、綺麗なケーキを仕上げたいという思いも忘れ無我夢中。他の人は?と見回せば、なんと向かいの男性は仕上げてしまつてスマシ顔。男性も女性も、どのお顔も達成感で笑顔、笑顔のオンパレードでした。最後に余ったクリームを入れたコーヒーマシの美味しかったこと。来年も参加したいと思いました。(受講者)



DV防止紙芝居 (小杉地区)

10月25日、池多公民館で、「DVとデートDV」の紙芝居をスクリーンに投影し、推進員の朗読を交えて実施しました。会場が明るすぎて、ちょっと見づらいところもありましたが、理解してもらえたと思います。若い人からも「DVはドラマだけではなく、身近にある問題ながいね」という声が聞かれました。



介護実習 (大島地区)

12月12日に特別養護老人ホーム「すずらん」において介護研修を体験させていただきました。

ベッドからの移動、また車椅子への移乗など判りやすく教えていただくと共に、介護に携わるスタッフの大変さを痛感いたしました。

車椅子を押す時は、介護される方の立場にたつてゆっくりと押すこと、坂道の時は介護される方が恐怖心を起こさないように、後ろ向きに降りて行くなどの心づかいが必要です。

これからの高齢化社会を鑑みても、男女共に身近な問題として考えていきたいですね。



～ジェンダー平等の宇宙(そら)へ～をテーマに女性の自立を熱く訴え、「山の動く日きたる」と詠った与謝野晶子の生誕の地「堺」にて、10月30日～11月1日に開催されました。

参加した第1分科会では、「政策決定の場にもっと女性の参画を」と3人のパネラーの討論がおこなわれました。その中の1人、日本初の女性市長で前芦屋市長の北村春江さんは、多くの悩みをかかえる女性たちの声に推され「女性の声を市政に」と立候補され、みごと当選。まだまだ女性がトップに立つことが難しい時代、周りからはいろいろな批判があり、大変苦勞されたそうです。多くの人たちの声援を力に努力し3期務められました。まだまだ国際的にみて日本の女性の社会参画比率は低いそうです。

多くの人たちの努力により、女性の社会参画も変わりつつあります。

去年は男女共同参画社会基本法制定10周年の節目の年でした。「山が動く」の言葉のように、社会もすこしずつ変化しています。性別による固定的な役割にとらわれることなく自分自身が意識改革をし、すべての人がその個性と能力を輝かせる社会であって欲しいと思います。



高岡ブロック地域別研修会

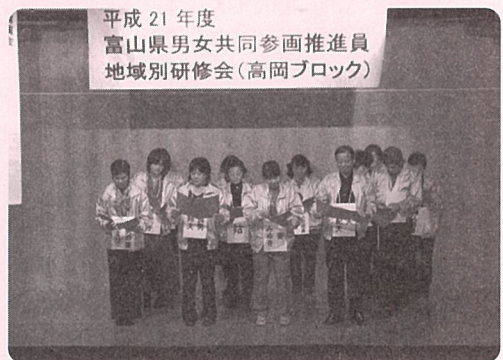
氷見いきいき元気館において約70名の出席者を得て開催された。

県からは、任期を終了した推進員のアンケート調査から①推進員対象のQ&Aを基本とした活動マニュアルを作成する、②県のホームページに男女共同参画推進員の活動状況を常時掲載し、PRに努める、③4月の研修会の案内と任期終了する推進員に対して新任推進員へのサポート依頼があった。

高岡市連絡会は、『何が問題?気づいて話そう3部作』をテーマに「DV/家庭における男女共同参画/ワーク・ライフ・バランス」のエピソードをロールプレイ方式で演じ問題を提起された。射水市連絡会は、『今、女達は』をテーマに「お茶は誰が入れるの?介護は誰がするの?女性のエンパワーメント」の3場面を設定しての朗読劇で、それぞれユーモアを交えながらの熱演で、会場から拍手喝采を浴びた。身近な問題であり、なるほどと共感したり、自分だったらどうするかなど真剣に考える良い機会となった。今回の朗読劇に私も参加しましたが、20年前既に同テーマで先輩の推進員たちが演じられたと聞くに及んで、世の中は変化しても人の心や慣習はなかなか改善しないものだ痛感した。

講演は、講師の専門分野である福祉の立場から、地域住民主体のケアネットチーム作りを特徴とした氷見流男女共同参画の紹介と里親制度の充実に向けての取り組みの報告があった。

研修会は2時間弱でしたが、意義のある研修会だったと思う。



編集後記

ムズムズ体操を幾度となく見かけます。この体操のリズミカルな動きは、今では市民誰もが知って、歌いながら身体を動かしています。ムズムズくんもすっかり射水市のイメージキャラクターとして定着しています。

私たち男女共同参画推進委員会も市民の皆さんに今以上周知していただけるように活動していきたいと思います。

山崎 京子

